

「東京研修か…先生が言うほど面白いのか？」

これが私が今回の研修に行くことになってから最初に抱いた感想。

「東京研修行ってよかった、今までの人生で最もいろいろなことを吸収できた 2 日間だったな～」

これは戻ってきた今の感想。こんなにもこの研修に参加する前と後で感想が変わるとは自分でも思わなかった。なぜ、私の心がここまで動かされたかをこのレポートで書きたいと思う。

1. ディレクトフォース

まず、東京に着いてから日本国内や、海外で活躍するたくさんの人生の先輩からお話を聞くディレクトフォースが行われた。

最初に全体に向けてのお話を近藤玄大さんから、聞かせていただいた。近藤さんは現在、SONY で義手についての研究をしている。私が彼の話の中で最も驚きを感じた部分は、今までの義手が肌色で手がないことを隠すためのものだったのに対し、違和感を抱いた彼が発想を逆転させて義手をウェアラブルアイテム(メガネやアクセサリなどの個性の特徴)にすればよいのではと考えたという部分であった。つまり、義手であるという事柄が隠したいことから、むしろ自分の個性の 1 つになるということだ。それを聞いた時、1 つの発想の転換で人の感じ方は 180° 変わるんだ、と感動すら覚えた。

その後、3～5 人の班ごとに一人の方を相手に質問タイムが設けられた。1 人目の方は、現在笹川平和財団で海洋研究調査部海洋政策チームの研究者として働いている方だった。その方は国際海洋法について主に研究しているのだが、なぜわざわざ民法などではなく国際海洋法なのか？と質問したら「現代の法律へのアプローチをかけた、民法は学ぶ人が多い分なかなかアプローチをかけるのが大変かもしれないけれど、あまり研究する人のいない国際海洋法ならアプローチがかけやすいのでは、と思ったからだ」とおっしゃっていた。最も早く自分の目的を達成するために、そのような工夫ができるのは改めてすごいと思った。2 人目の方は、日本学術振興会で特別研究者として活動なさっている方だった。その方は、主に世界の飢餓などの食についての問題を研究している方で、その方曰く現在、全世界の 9 人に 1 人が飢餓状態に陥っていると聞き本当に驚いた。それは、きっと自分の身の回りにそんな状態の人がいないからだと思う。ただ、世界にはもっともっと苦しい環境で生きている子供達もいて、それなのに日本は年間 630 万トンもの食料を廃棄している、と聞きこれから食べ物を残さないようにしようと思った。3 人目の方は、キューピーで働いている方で、和風ドレッシングの第 1 人者だった。その方は当時タルタルソースの研究を任されていたのだが、マヨネーズが嫌いなため何か自分に合う洋風とは違ったドレ

ッシングは作れないのか？と考えた結果生まれたのが和風ドレッシングだったという。ただその方は、「決して自分1人でそれを作ったのではなく、多くの人の助け合いがあったから和風ドレッシングは完成したのだ」とおっしゃっていた。なるほど、と感心させられた。そんな別々の話を聞かせて下さった3人の方が共通して言われていたことが「君たちはまだまだ若くて可能性があるんだから、様々なことに挑戦してみなさい。」ということだった。この言葉は、今回の研修で幾度となく聞くことになるのだが、この時はまだ「何を当たり前のことを」と心の中で思っていた。

2.企業訪問 文化放送

私は、まだ理系・文系どちらに進むか決めていない。今回はその進路選択のきっかけ作りになればと思い、文系の仕事を今回は見学しに行った。

文化放送とは、東京に本社があり主に関東での放送を行っているラジオ局である。最初に、担当のアナウンサーの方に挨拶してから案内されたのは野外でのラジオの生放送だった。スタッフの方が2名出演者の方をサポートする形であった、一方の方はいわゆるカンペを出して、もう一方の方はマイクを出演者の方に向けていた。私はこういったメディアの仕事現場は、スタッフの方はあまり笑わず黙々と自分の仕事をこなしているイメージを持っていたが、実際はむしろ出演者の方の発言に笑っていて、その声がマイクに入らないように必死にこらえているというようにこやかな現場であった。貴重な体験ができたことに加え、いい意味で私は期待を裏切られこの時点でここを企業訪問先に選んで良かったと思った。

次に、スタジオの中に入れていただき、質問もそこでさせてもらった。その返答の中で印象的だったものを幾つか挙げてみると、-アナウンサーのタイムスケジュールはどうなっていますか？に対して「私は、ニュースとバラエティを主に担当していますが、ニュースは朝早くバラエティは夜遅くにあるので大変です。さらに、毎日違う番組を担当するのでタイムスケジュールが同じという日がありませんね。」とっていてやはりアナウンサーの方々は大変なんだと感じた。

アナウンサーに大切なことは？に対して「3つあって1つは目は、自分が言った発言によって局に与える影響を考えること。2つ目は、感情に任せて発言せずに、一歩引いて考えること。3つ目は、聴いている人を傷つけないこと。例えば、梅雨なのに雨が降らなくていいですね。と言うと、一般的にはいいかもしれないが農家の人にとっては傷つく言葉の対象になる。」という返答だった。特に3つ目の聴いている人を傷つけないというのは非常に難しいなと感じた。誰かにとっていいことでも、違う誰かにとっては傷つく事かもしれないと常に考えながら発言するのは、慣れた人じゃないとできない事だと実感した。

最後にアドバイスとして、「とにかく先ずはやってみることから。どんなに自分が望んでいなかった役割を担当することになっても、チャレンジしてみるといい。」と言われた。数

時間前に聞いていたことと、同じようなことを私はまたここで聞いた。

3.二高 OB,OG 座談会

1日目の夕食後、私たちは二高の卒業生の方々とグループに分かれてお話させてもらった。トータル4人の方々から聞いた話はどれも今の自分にとってもためになるものだった。そこで、1人の方に「苦手教科を克服するには？」と質問してみた。すると、「まずはこれは私の苦手教科だと思って勉強するのではなく、好きなんだけど理解に時間がかかる教科だと思って取り組みなさい。何事もやってみることから。」と言われて、またここでも今まで様々な方々から聞いたことと同じことを聞いた。

4.東京大学見学

今回の研修の目玉の1つである東大見学。私たちは、駒場キャンパスと本郷キャンパスの2つを見学させてもらった。駒場キャンパスでは、キャンパス見学の後、ワークショップ[進路を見つめ直す]というものと、プレゼンテーション[東大のことを知ろう]というものをしていただいた。ワークショップでは、それぞれが東大生の方々の話を聞きながら将来のことを考え、これからの進路選択に活かしていくための話し合いが行われた。私は、既に将来の目標はあるためその職業から逆算して、どの道を選べばその職業にたどり着けるかを考えるといいというアドバイスをいただいた。プレゼンテーションでは、今の生活、これからの生活に活かしていけるような実体験に基づくお話を東大生の方々からきかせていただいた。どれもためになることだった。特に、大学選びのポイントについてのお話は自分も使わせてもらおうと思うほどだった。

それから、本郷キャンパスに移ってキャンパス見学の後、個別相談会と模擬授業を体験した。個別相談会では、現役東大生の方と今の勉強法などについて話すもので、短い時間ではあったが聞きたいことをどんどん聞いて良かった。やはり、東大生の方々はきっと1日に信じられない時間勉強していたんだろうな~と思っていたが、話を聞くとそういったわけではなく、勉強法を工夫するといった形であった。例えば、自分が何かを記憶するのに時間がかかる方だと理解した上でどうしても覚えられない英単語などを、1日に1個ずつ暇があれば頭の中で繰り返して覚えるなどというものだった。自分の勉強上での特徴を知ることは大事だということが改めて分かった。

その後の模擬授業では法学部で行う内容の授業を受けた。当たり前だが難しくあまり理解はできなかった。だが、貴重な体験になったことは間違いないので良かったといえる。

こうして、私の2日間はあっという間に過ぎた。今だからこそいえるが、企業大学訪問に参加して本当に良かった。そして、この行事で何度も聞いた"チャレンジ"をこれからは積極的に行っていきたい。